

市民・科学者国際会議

放射線による健康リスク

～福島「国際専門家会議」を検証する～

2011年10月12日(水曜日)

於:国立オリンピック記念青少年総合センター

所在地:〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町 3-1 <http://nyc.niye.go.jp/>

去る9月11・12日に福島県立医科大学で開催された日本財団主催「国際専門家会議」は、山下俊一教授を中心に、国連科学委員会(UNSCEAR)・国際放射線防護委員会(ICRP)・国際原子力委員会(IAEA)・世界保健機関(WHO)などによって開催されました。原子力産業と親和性の高いこうした国際機関の外部評価によって、「県民健康管理調査」の予見 ①「福島第一原発事故による健康影響は極めて少ない」②「低線量被ばく(年間100mSv以下)は安全である」が正当化されようとしています。

私たちは、「国際専門家会議」や「県民健康管理調査委員会」のような一部の専門家のみならず、最先端の研究をふまえ、低線量被ばくに関して警鐘を鳴らす国際機関・シンクタンクと協力していく必要があります。今回の市民・科学者国際会議では、市民のイニシアティブによって、「国際専門家会議」の内容を検証し、原発事故の被害者をはじめとする市民とともに、中長期的に県民健康管理調査を監視するための「第三者機関」を準備したいと考えています。(3月に国際シンポジウム開催予定) 第二部の円卓会議では市民も交えてディスカッションを行います。ぜひご参加ください。

第一部:講演

国際交流棟:第一ミーティングルーム(開場:09:10)

- ①09:30～10:55 松井英介(医師/岐阜環境医学研究所所長)
- ②11:05～12:30 崎山比早子(医学博士/高木学校)
- ③13:30～14:55 セバスチャン・プフルークバイル(物理学博士/ドイツ放射線防護協会会長)
- ④15:05～16:30 沢田昭二(物理学博士/名古屋大学名誉教授)

第二部:円卓会議 Round-table conference

国際交流棟:国際会議室(開場:17:40)

18:00～21:00 ファシリテーター松井英介

- ・9月11・12日の福島「国際専門家会議」の検証
- ・放射線防護とコミュニケーション
- ・3月に予定されるシンポジウムに向けて(方向性、準備委員会設置などについて)

崎山比早子(医学博士 高木学校)

セバスチャン・プフルークバイル(物理学博士 ドイツ放射線防護協会会長)

沢田昭二(物理学博士 名古屋大学名誉教授)

オイゲン・アイヒホルン(ミュンヘン工科大学 日独平和フォーラム会長)

高橋哲哉(哲学者、東京大学大学院総合文化研究科教授)

板垣雄三(歴史家 中東・国際政治研究 日本バグウォッシュ会議メンバー、東京大学・東京経済大学名誉教授)

山田真(小児科医 子どもたちを放射能から守る全国小児科医ネットワーク代表)

ティエリー・リポー(社会学者 フランス国立科学研究センター研究員、フランス国立現代日本研究センター)

梅村浄(小児科医) ほか



主催: NPO法人セスペースプロジェクト、CRMS 市民放射能測定所

共催: 高木学校 市民科学研究室・低線量被曝研究会 47プロジェクト FoE Japan ELPIS こどものとなり

低線量ひばくから子ども達の未来を守るプロジェクト 子どもたちを放射能から守る全国ネットワーク

市民・科学者国際会議

放射線による健康リスク～福島「国際専門家会議」を検証する～

①09:30～10:55 「低線量」内部被曝による健康障害



松井英介 Dr. Eisuke MATUI

(医師、岐阜環境医学研究所所長)

2001年3月まで岐阜大学医学部附属病院勤務。放射線医学講座助教授。退任後、岐阜環境医学研究所を開設、現在に至る。日本呼吸器学会専門医、日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡指導医、日本肺癌学会および日本呼吸器内視鏡学会特別会員。著書『見えない恐怖放射線内部被曝』(旬報社)など。

②11:05～12:30 チェルノブイリ大惨事による健康影響の実相



崎山比早子 Dr. Hisako SAKIYAMA

(医学博士、高木学校)

千葉大学医学部卒、医学博士、マサチューセッツ工科大学研究員、放射線医学総合研究所主任研究官を経て、高木学校(故・高木仁三郎さんが市民科学者を育てたいと1998年にはじめた学校)メンバー。共著『受ける? 受けない? エックス線 CT 検査』(七つ森書館)など。

③13:30～14:55 真実を見極める～チェルノブイリ・ドイツ・福島～ セバスチャン・プフルークバイル Dr. Sebastian Pflugbeil



(物理学博士、ドイツ放射線防護協会会長)

物理学博士。1947年生まれ。ドイツ放射線防護協会会長。

オット・フーク放射線研究所会員、欧州放射線リスク委員会(ECRR)理事。

1990年ベルリンで市民団体「チェルノブイリの子どもたち」を設置し、長年ドイツ・チェルノブイリ支援協会(ミュンヘン)の理事を務めていた。原子力発電所周辺における子どもの癌発病率増加についての研究調査(KiKK調査)における独立した専門家。

④15:05～16:30 実態と懸け離れた放影研の被爆者研究



沢田昭二 Prof. Shoji SAWADA

(物理学博士、名古屋大学名誉教授)

1931年広島市に生まれる。13歳のとき爆心地から1,400mの自宅で被爆。

広島大学大学院理学研究科博士課程修了。広島・長崎の原爆放射線線量、原爆被爆者の急性症状発症率から放射性降下物や誘導放射化物質による残留放射能による被曝影響を研究。原水爆禁止日本協議会代表理事。著書『核兵器はいらない! -知っておきたい基礎知識』(2005年、新日本出版)など。

会費		一般	学生
第一部	講演会①②(午前)	1,000円	500円
	講演会③④(午後)	1,000円	500円
第二部	円卓会議	1,000円	500円
一日通し(四講座+円卓会議)		2,500円	1,500円

会場:

国立オリンピック記念青少年総合センター
講演会: 国際交流棟(2階)第一ミーティングルーム
円卓会議: 国際交流棟(1階)国際会議室
〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町 3-1
<http://nyc.niye.go.jp/facilities/d7.html>
小田急線「参宮橋駅」・千代田線「代々木公園駅」

お申込み(締め切り) 10月10日

<http://www.saypeace.org>

(専用フォーム) <http://form1.fc2.com/form/?id=697165>

お問い合わせ:

NPO 法人 セイピースプロジェクト

TEL/FAX: 03-6450-8124

MAIL: mail@saypeace.org

HP: <http://www.saypeace.org>

CRMS 市民放射能測定所(福島)

TEL: 024-573-5697

MAIL: aya@crms-jpn.com

HP: <http://www.crms-jpn.com>

